

★ 4種類のチームの「強み」と「弱み」

	強み	弱み
仲間型チーム	<p>お客様が急激な変化を好まずちよとずつ品質が上がる環境に最適</p> <p>競争相手と自分のチームが、知り合いや友人になれる</p> <p>安定性やゆっくりとした改善は得意</p> <p>メンバー間に「あうん」の呼吸が生まれ、自然に協力体制ができる</p> <p>「素直さ」と「和」が、情の深い鬼のような上司の下で開花することがある</p> <p>防衛力が非常に強い（自分たちの主義主張を頑なに守ることが出来る）</p>	<p>大きな変化に弱い</p> <p>一緒に手をつないで仲良く沈んで行ってしまう</p> <p>良い方向の時はイイが、方向がずれた時に修正が効かない</p> <p>メンバー相互に生じる甘えの構造に陥りやすい</p> <p>起業家的な上司が表れると、とてつもない抵抗勢力となる</p> <p>内側で合わない人が入ってくると、村八分にってしまう陰湿さ</p>
仕組み・軍隊型チーム	<p>目標が明確で、目標の変化や環境変化が少ない場合に強い</p> <p>公務員や官僚組織などの環境変化がほとんどないケースが最高</p> <p>非常に強い商品を持っていて、競争環境をコントロールできる場合に強い</p> <p>仕事上で発生する、かなりの部分を自動化できる（マニュアル化）</p> <p>「勝つ」「開業する」など、シンプルな目標に対して最高に力を発揮する</p> <p>余計な部分をどんどん省いていけるので、さらに効率が上がる</p>	<p>突然競合店が出来た場合や予想もしないクレームなど</p> <p>突然の環境変化には、めっぽう弱い</p> <p>朝言ったことと夕方言ったことが異なる上司（朝令暮改）などには</p> <p>突然の目標変化となるため、めっぽう弱い</p> <p>何事においても、「ワンパターン」になりやすい（戦術が少ない）</p>
スペシャリスト・開発型チーム	<p>複数の専門的なスキルが必要な場合には最高の強さ</p> <p>（製造者としての専門性と販売者としての専門性が必要など）</p> <p>プレッシャーには大変に強い（いつも期待され慣れている）</p> <p>例えば、「薬の開発」「バイオ」「情報工学」「統計学」などに当てはまる</p> <p>プロジェクトを立ち上げたり出来るのもこのチームの強さ</p> <p>異分野や、異なる人生観であっても、共通の価値観を共有できる</p>	<p>人材同士が「エゴ」の対立となり、定着率が低い</p> <p>（個人として優秀な人を集めて、チームで働くことが求められるため）</p> <p>対立や誤解が多く生じる（頭の回転が速いため先読みしてしまう）</p> <p>難しい仕事の流れをルーティン化することが上手であるが、</p> <p>一度決めたルーティンをなかなか変更できなく、他社に足元をすくわれる</p> <p>新しいテーマに乗っていきづらい性質も持つ</p>
変幻自在・自由型チーム	<p>変化の激しい環境や不確実性が高い環境で最高に強い</p> <p>仕事を遂行するスピードが非常に速い</p> <p>顧客のニーズやウォンツの変化に合わせて対応するのも得意技</p> <p>失敗してもあとくされがない</p> <p>外に対して非常に開かれた組織で、外部人材をブレイクに迎える</p> <p>10人いれば10人が違ったアプローチをするため、どれかが当たる</p>	<p>安定性が、そもそもない（安定を求めているない）</p> <p>はじめに個人の個性ありきのため、コアな人材が抜けると方向性も変わる</p> <p>調子の好不調の波が激しい</p> <p>集合をかけても、本人がその集まりに意味を見出せなければ難しい</p> <p>自分の支持母体は顧客であり、会社ではないという考え方をする</p> <p>勘違いメンバーが素人的なパフォーマンスをしやすい</p>